

湘南白百合学園小学校 書写教育の取り組み

湘南白百合学園小学校

鳥山直子

1 はじめに

本校は、神奈川県藤沢市にあり、江ノ島を目の前に臨むカトリックの女子校です。幼稚園、小学校、中学校、高等学校の一貫校で、本年で創立85周年を迎えました。「従順、勤勉、愛徳」を校訓とし、「神さまの教えにしたがって、知識を豊かにし、いつでもどこでも正しいことを求め、愛の心にあふれて、世界の人々のために働ける人となること」を学ぶ目的に日々の教育活動に取り組んでいます。

2 書写教育の具体的な取り組み

(1) 授業の工夫

入学当初から、硬筆で文字を正しく丁寧に書くことに力を入れて指導しています。漢字学習では、「漢字ノート」を作成し、一文字一文字について、部首・読み方(音,訓)・熟語・短文を書き、担任が毎日丁寧に添削をしています。

毛筆の学習は、1、2年生の「水筆」ではらいのある字を書くことから始めています。3年生から毛筆担当の専任が受け持ち、筆で文字を書くことを楽しめるよう指導しています。「ためし書きをして教科書の手本と見比べ、自分の学習課題を発見し、まとめ書きをする」という形式で進めています。教師は、書画カメラを使い、実際に筆の運び方を見せ、その単元のポイントを掴めるように説明しています。また、筆遣いが身につくよう、3年生では一人一人の手を取って一緒に書いています。

(2) 行事

毎年、冬休み明けの1月に「書き初め」を行っています。広い廊下で、3年生以上が1クラスずつ横一列に並び、半切に大筆で課題を書き上げます。

1月の終わりに行う「学習発表会」では、「心に浮かぶ言葉」をテーマに、3年生では漢字一文字、4年生ではカタカナで心に浮かぶ言葉、5年生ではひらがなで心に浮かぶ言葉、6年生では心に浮かぶ言葉(四字熟語が多い)を書き、かけ軸に表装し、展示しています。筆を通して文字を書くことを楽しみ、硬筆でもそれを生かせるよう心がけています。



3 おわりに

この度は、文部科学大臣賞という名誉ある賞をいただき、大変光榮に思っております。この受賞を励みに、子供たちと共に、書写教育の充実に取り組んでいきたいと思っております。ありがとうございました。



読谷村立 古堅中学校の取り組み

読谷村立古堅中学校

1. はじめに

古堅中学校は、沖縄本島の中部、西海岸に位置する、日本一人口の多い村「読谷村」にあります。村内には世界遺産に登録された座喜味城跡や、景勝地として知られる残波岬など、名所・旧跡が多くあります。伝統文化も多く引き継がれ、「読谷山花織」という織物や、「やちむんの里」と呼ばれる焼き物の窯が並ぶ場所もあります。歴史や伝統を感じる環境の中で、全校生徒 568 名が「学力・思いやり・部活動日本一！」をスローガンに良い伝統の“襷”をつなごうと、日々の学習や部活動に励んでいます。



【正門からの風景】



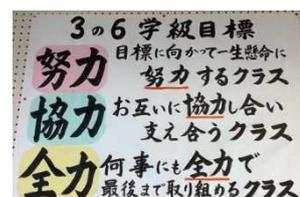
【作業に励む生徒達】

2. 書写教育の取り組み

(1) 国語科での取り組み

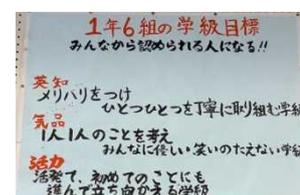
毛筆や硬筆との違い等基本事項を確認し、日常生活に生きる書写の能力を育成することができるよう心がけています。

季節の便りとして、暑中見舞いや年賀状は全学年共通の課として毎年取り組んでいます。また、新年の目標は緊張感をもって毛筆で書き表し、新年の決意を新たにすように取り組んでいます。



毎年全国書道展覧会の課題を夏休みの宿題として位置づけ「全校生徒全員の作品を出品すること」を目標に毎年取り組みを続けています。今年は約82%の出品率となりました。

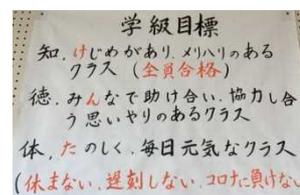
その他、各種書道コンクールへの参加も促しており、積極的に挑戦する生徒も多くいます。



(2) 学校内での取り組み

地域の書道教室に通う生徒たちが率先して掲示物を書いてくれ、学級目標など学級・校内の掲示物は生徒の字が残るように各職員が意識して取り組んでいます。

また、各種コンクールで賞を受賞した作品を校内に展示し、生徒たちが良い作品を目にする機会を作っています。



3. おわりに

この度は、文部科学大臣賞という大きな賞をいただき、大変光栄に思います。毎年貴展覧会に出品し、全員に審査結果をいただくことで、生徒の意欲喚起につながっています。今年は特に緊急事態宣言下の夏休みで、生徒達は色々な制約の中で不安な日々を過ごしたと思いますが、しっかりと宿題を仕上げ提出してくれてとても頼もしく感じました。今後も生徒が進んで文字文化に親しみ、表現できる喜びを感じられるよう取り組んでまいります。地域の書道教室を指導されている先生方、保護者、お世話いただきました関係者の方々に心よりお礼申し上げます。

【学級掲示物紹介】

